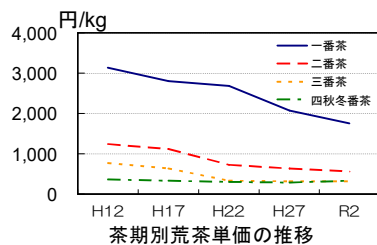


○ 取組の背景

- リーフ向け荒茶の需要減少により、一・二番茶価格が低下。
- 農家の高齢化や茶の収益低下により、共同茶工場の存続が難しくなっている。
- 中小規模農家の規模縮小や離農により、管理ができなくなる茶園が増えている。



○ 課題・目標

- 共同茶工場の組織再編、事業の継承や担い手への農地集積により、産地を支える継続性の高い茶業経営体の育成

普及指導員の活動

○ 推進方向1 「茶業経営体の体質強化と効率的茶園管理の推進」

■ 経営体の体質強化、生産構造改革の推進

- ・ セミナー開催(12/17)「茶のスマート農業技術の現状」 18人参加
- ・ 需要に応じた生産構造への転換支援(ChaOIプロジェクト推進事業) 6経営体の生産・収支等の計画策定支援(3~7月) 採択された4経営体の機械等整備事業推進(8月~)



セミナーの様子

■ 共同管理作業の取組支援

- ・ A茶農協組合員有志による共同摘採組織運営への助言
R2: 共同管理の仕組み構築支援
R3: 法人化の基本事項説明、専門家派遣による指導



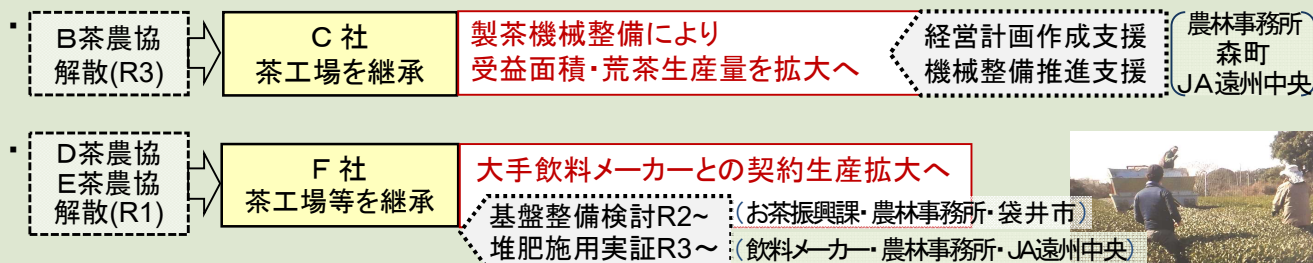
専門家による指導

■ 茶園の面的集積

- ・ 6市町、3JA、中間管理機構との集積推進打合せ(5~6月、2月)
- ・ 農地集積、基盤整備を検討している地区での説明、話し合い(7月~)

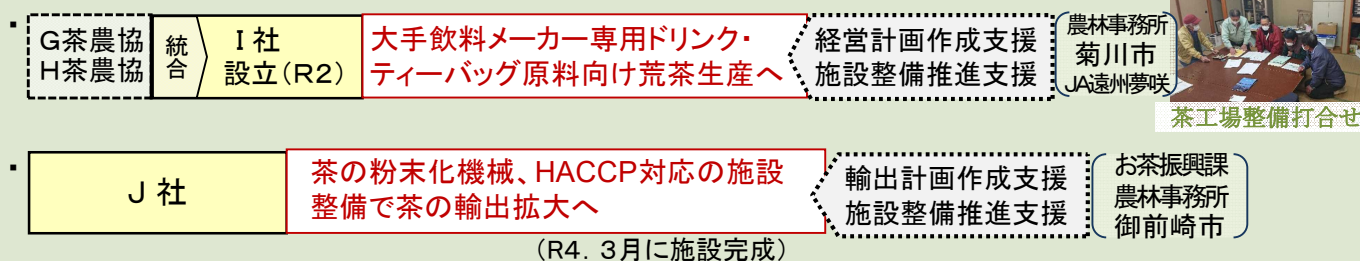
○ 推進方向2 「共同茶工場の再編と特色ある茶生産の取組支援」

■ 新たな茶工場経営体への再編(再編後のフォローアップ)



土づくり実証

■ 特色ある茶生産への支援



茶工場整備打合せ

具体的な成果

○「茶業経営体の体質強化と効率的茶園管理の推進」

■経営体の体質強化、生産構造改革の推進

☆ 新たに体質強化に1経営体、生産構造転換に4経営体が取り組んだ。

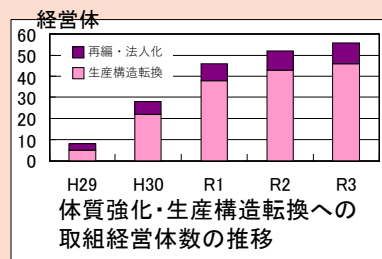
* 体質強化・・・任意組織が法人化に取組中 (A茶農協有志グループ)

* 需要に応じた生産構造への転換・・・

取引先との契約販売の実施

ドリンク原料茶向け等荒茶製造機械整備

4経営体



■共同管理作業の取組支援

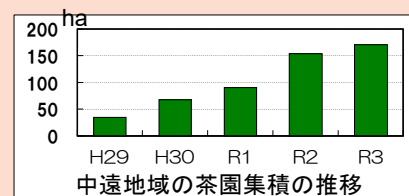
☆ 茶園共同管理作業グループが法人化を準備中。(A茶農協有志グループ:再掲)

専門家の助言により、収益分配や経費拠出等の経理、資産管理等の疑問や不安が解消。

ひとつの経営体としての労務管理や財務管理体制づくり

| | R2 | R3 | |
|----------------|--|-----------|----|
| * 仲間(構成員)が増加! | 3 | 4 | 人 |
| * 共同管理の面積が増加! | 9.3 | 12.7 | ha |
| * 菌床しいたけも規模拡大! | 1人・7,000 | 4人・12,000 | 菌床 |
| * 共同化の効果 | ・茶園管理作業の効率UP! ・茶工場への安定的な労務提供で荒茶品質が安定! | | |

将来は
A茶農協の中心的
な担い手へ



■茶園の面的集積

☆ 農地バンク事業等を活用した担い手への集積茶園面積が増加

(R2) 153.7 → (R3) 173.3 ha

○「共同茶工場の再編と特色ある茶生産の取組支援」

■新たな茶工場経営体への再編(再編後のフォローアップ)

☆ C社の茶工場の新たな製茶機械が整備され、生産力が高まった。

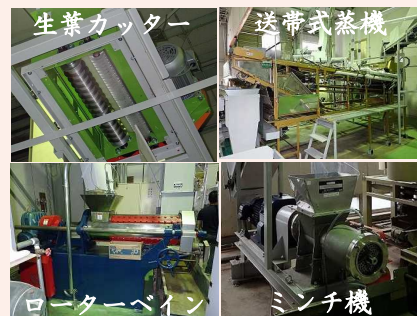
* 製茶能力が向上し、荒茶生産量の2倍以上増加を計画!

* 茶商の要望に添う荒茶製造の実現!

(上級～一般リーフ向け、粉茶等の原料向けなど)

| | 整備前R2 | 整備後R4目標 | |
|----------|-------|----------|------|
| 構成員(役員)数 | 3 | 5 | 人 |
| 受益茶園面積 | 19 | 28 | ha |
| 生葉処理能力 | 5,000 | 10,000 | kg/日 |
| 荒茶生産 | 1,2番茶 | 1,2,秋冬番茶 | |

(R3整備後に、これまで製茶しなかった秋冬番茶を製造)



☆ F社の飲料会社とのドリンク向け茶生産の契約茶園面積が拡大した。

* 契約茶園面積 R3: 2.7倍 (R1比)

■特色ある茶生産への支援

☆ I社のドリンク・ティーバッグ向け茶専用の製茶工場が操業開始した。

* 年間販売額の増加に向けて取組む! R3: 44%増 (R1比)

☆ J社の輸出向け粉末茶製造施設を整備中。

* 輸出向け対応可能なHACCP対応衛生管理の茶粉末加工施設が整備された!

* 粉末茶の新たな販路(輸出先)を開拓中

